

眞実の言葉に触れた時、自分の未熟さを知った時、人は現実を引き受け、前に進むことが出来ます。この時「救われた」と実感出来るのです。

「僕いつも思うんですけど、自分が下手だってわかる時って、目が肥えてきた時なんですよ。本当に下手な時って下手なのもわからないう。ゆがんでたり間違つてたり、はみ出してても気がつかない。それに気づくのは上達してきたからなんです。だから、下手だと思つた時こそ伸び時です。」

女の子は絶句します。そして數ヶ月後、再会した彼女は高校で美術部に入つたことを嬉しそうに報告するのでした。

映画『ミステリと言つ勿れ』で主人公の久能整という大学生が絵を描くのが好きだったけど、ある時自分がすごく下手だと思えてきて描くのをやめたと話す女子高生



下手だと
思った時にこそ
伸び時です

自然と、全校生徒の視線はA子さんに注がれます。その泳ぎ方がぎこちなかつたため、プールサイドの生徒たちの中から笑い声が起きました。「さつきから全然進こりました」「やがくよろしく泳ぐA子さん一人になりました。

と野次を飛ばす生徒もいました。優しい性格の生徒たちは、足の不自由なA子さんのその姿が見ていました。目をそらしきつ前に進み、とうとうコースの半分くらいまで来ました。

その時、背広姿のままプールに飛びこんだ人がいました。A子さんのクラス担任のB先生です。B先生は、懸命に泳ぐA子さんのそばで「がんばれ」「あと半分だぞ」と声援を送りました。その姿に、最初は笑っていた生徒や目をそらしていた生徒たちも、いつしか声

援を送るようになりました。そして、ほかの選手から大きく遅れてA子さんがゴールした時、プールは大きな拍手と歓声に包まれました。最後まで泳ぎきったA子さんは、とても嬉しそうでした。そしてその日以来、A子さんの足のことをからかう生徒はいなくなりました。

『変わりたいあなたへの33のもの
がたり』植西聰著より

親鸞聖人は、「自身のことを「愚禿」と名告られました。自らが未熟な人間と自覚して生きることを確かめる言葉です。

「眞実」とこの「未熟の自覚」が救いの絶対条件となります。

自分のハンデも人目も気にせず正々堂々と役割を果たそうとしたA子さんと、彼女のことをハンデをもろともせずにがんばる努力家だと尊敬し応援したB先生の「眞実」に、A子さんが泳ぐ姿を見て笑つたり同調したり、目をそらして生徒の「未熟さ」が照らされてしまふ。生徒の「未熟さ」が照らされ大きな拍手と歓声につながったのではないでしようか。

「眞実の言葉」と「未熟の自覚」のためにお寺は存在します。』一緒に聞法しましよう。

前坊守還淨

げんじょう

当山前坊守 橋口信子 2023年11月11日午前8時45分 往生の素懐を遂げました 一般焼香・通夜11月20日 葬儀21日 法名 大誓院釋尼信燈 享年91



母が京都から嫁いだ頃の本龍寺は三河地震後の仮御堂が佇む閑散としたお寺でした。前住職とともに奥座敷、鐘楼、同朋会館、水屋、東西塀が出来、2度の御遠忌法要が勤まる激動の時代を生きました。あとは本堂という平成5年に父が62歳で還淨。それゆえ新しい本堂の完成を何より喜んでおりました。その母を新本堂から送り出せたことは、誠にありがたいことでした。皆さまには、今後とも変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。





行事写真報告

昨年10月から
今年5月まで



報恩講

12月7・8・9・10日 三昼夜で九座法要 法話と公演；
堀田護師・本多雅人師・竹友会・藤原千佳子師・森谷
ワカジャズトリオ・鷹巣純師・西三河雅楽研究会





味噌作りの会 2月2・5・8・10日 63名参加57樽142.5kgの
美味しい無添加手作り味噌が出来ました







同朋婦人会追弔会・ヨラボックルコンサート・マルシェ

5月12日午後



駐輪場を寄贈 第29・30代同朋婦人会の皆さんに鐘楼北に駐輪場を寄付して下さいました。自転車も倉庫への荷物出し入れも雨にぬれません。ありがとうございました。

寄贈	寄贈
第30代 同朋婦人会	第29代 同朋婦人会
神本綱代子 杉浦高洋子 神本由香理子 松谷久美子 宮田照美子 宮名喜美子 兵早谷裕子 神谷昭子 早川かよ子 早川口芳子 林由美子 早川矢知代 石川みつ代 神谷喜美子 鈴木伊代子	子育立里子 名美鶴雅子 名築藤都兵 藤谷恵美子 早川由利子 早川月代子 早川早子 兵藤和子 藤名喜代美 杉浦やつゑ 都築はる美 春
令和5年12月	令和5年12月



毎月の法話会点描

みどりの会

昭和56年発足。若かった前坊守が本気で教えを学び、その感動を伝えたいと周囲を動かし、30~40代で子育て世代のお母さん方を30人以上集めて発足。講師は年ごとに野田風雪師、宇野正一師、安藤伝融師、小谷香示師など。現在は会員9名。聞法歴40年超の方も。講師は住職。蓮如上人の「物を申せば心底もきこえ、また人にもなおさるるなり」より、法話後は引っかかったところや疑問点、日ごろの思いなど何でも話し合える場となっています。平日19:30~21:00、3・8・9・12月以外の月一回、年8回開催。



平成10年発足。仏法は自分だけでなく、人と一緒に聞法して人の感想も聞いて自分の思いも言葉にして外に出してみることが大事と、子育ての悩みを持つ同じ境遇の若いお母さんが対象の会としてスタート。子どもによって親が育てられ現在は新たなメンバーとステージの幅広い仲間とで学んでいます。今は会員7名、講師は住職。人数は少ないですが、みどりの会と並んで話し合いの出来る貴重な会です。単なるおしゃべりではなく、仏法をふまえることで今までになかった角度や視点での気づきがあります。平日午前10:00~12:00、8月以外の月一回、年11回開催。

根育ての会



正信会

昭和40年発足。全国的に展開された真宗同朋会運動の時流に乗り発足した本龍寺で最も歴史ある法話会。私(現坊守)が嫁に来た36年前は、会が始まる1時間以上も前に最前列中央から座布団が埋まり、皆さん涙ながらに喜んで仏法聴聞しておられました。会員も150名を超えていました。お寺へ行く時は堂々と家を出てこられました。足や腰が悪くなつてお寺に来られない方用に法話の録音テープを回覧するシステムがあります。現在会員49名。親鸞聖人の書かれた和讃をテーマに講師は毎月違う先生をお招きします。平日午後13:30~15:30、3・8・9・12月以外の月一回、年8回開催。



本龍寺通信《番外編⑩》

和泉の本龍寺

検索

～ハッとしたとき出るエッセイ～

せぢ守のひとりごと

愛知県安城市和泉町中本郷41

2024年7月6日号

言葉は残る
その人の
人は去つても

「言葉によって生かされる」

毎月必ず新しくしていた門前掲示板の法語が、前坊守が亡くなる少し前から数ヶ月後まで替えることが出来ませんでした。住職も私も、母からたくさんのお言葉をいただいてきました。

「お寺は大事、仏法 聴聞ちようもんが大事」 「聴聞しないと本当の自分に出会えない」
「お斎は大事、手を抜く努力はするな」 「自分で自分の枠わくを決めるな」

若いころの私は「何で私が…」「私には無理です！」こんな言葉を常に母や住職にぶつけてきました。でも母から帰ってくる言葉は

「阿弥陀さまの御用をさせていただいているのに、自分の都合で無理と言うな」

皆さんのために、皆さんとともに、お寺の勤まりごとを一生懸命させていただく、この姿勢を徹底的にたたき込んでいただきました。

母は、お寺のことや仏さまのことなど何も知らない私を育てるために、いろいろなことを取り入れて、生活と結びついた仏法を身をもって教えてくれました。前住職の糖尿病をご縁に、自然療法や自然食を実践しました。お陰で5人の子どもたちは、すくすく丈夫に育ちました。ご自身も88歳まで病気知らずで、健康自慢しながら本堂の最前列で背筋をピンと伸ばして聴聞しておられました。その後、大腿骨骨折→大腸癌→2度目の骨折…。老いて病んで一つずつ出来なくなつて一つずつ仏さまにお返しして、90歳誕生日の翌日に静かに浄土に還っていました。

住職も私も、お寺の行事を皆さんとともに勤めすることが何よりも大事であるし、自分たちの喜びとなりました。

先日境内で草取りをしていたら、門前にトラックを停めた知らない顔の宅急便のお兄ちゃんが、荷物を置いて走って戻る途中「あっ」と言って立ち止りました。「ボク普段は忘れていたんですけど、この掲示板に書いてある言葉にああそうだなあと思いつかせてもらって、ありがとうございました」と言ってくれました。忙しそうなお兄ちゃんがわざわざ感動を伝えてくれたことが、本当に嬉しかったです。

私たちは子どもが育ったら、あちこち旅行しようとかマラソン大会に出ようとか話していましたが、今一番嬉しいのは、お寺に来た人が「真実の言葉」に会って少しでも感動したり元気が出たりする姿を見せていただくことです。前坊守から託されたお寺の使命と役割を、次の世代に伝えていきたいと強く思うこのごろです。

「苦」の正体は
「思い通りにしたい」という自己願望

坊守 樋口頼子

あと
がき

第79号をお届けします。イベントはたくさん人が集まって賑やかで楽しいですが、やはり毎月の法話会がきちんと勤まつて初めて成り立つのだと思います。「真実の言葉」からもらった元気をまわりの人へお分けする場がお寺でのイベントでありたいと思います。〈頼〉